

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	スポーツ振興課	主管課長名	若林 正則
2-4	施策名	生涯スポーツ活動の振興	関係課	企画課、健康推進課、学校教育課、生涯学習課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,027	39,571	39,115	
実績値						41,278	40,483	39,692			
見込値											
					実績値						
的		施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
		スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている。	①週1回以上スポーツを行っている市民の割合	%		目標値	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0
						実績値	40.2	40.3	40.2		
			②スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合	%		目標値	66.0	67.0	68.0	69.0	70.0
						実績値	61.5	57.4	59.8		
			③市のスポーツ施設利用者延べ人数	人		目標値	278,000	280,000	282,000	284,000	286,000
	実績値					289,594	289,812	256,739			
	④スポーツ少年団登録指導者数		人		目標値	197	198	199	200	201	
					実績値	169	160	152			
	成果指標設定の考え方	○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来ているかは、アンケートにより、①「週1回以上スポーツを行っている市民の割合」(実施率)と、②スポーツを日常的に行っている市民の中で、「スポーツを通じて健康で明るい生活を送っていると答えた市民の割合」において把握する。									
成果指標の把握方法及算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①週1回以上スポーツを行っている市民の割合、②スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合は、市民アンケートより求める。③市のスポーツ施設利用者延べ人数は、市内体育施設及び小学校体育施設使用許可申請書より求める。④スポーツ少年団登録指導者数は、スポーツ少年団の指導者登録人数より求める。										

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>○スポーツ実施率(週1回以上スポーツを行っている市民の割合)は、平成29年度40.2%、平成30年度40.3%、令和元年度は、40.2%とほぼ横ばいである。今年度も運動をしている人が習慣的・継続的に運動していると思われる。また、スポーツをしている人の中で、スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民は、平成29年度は61.5%、平成30年度は57.4%と4.1ポイントの減少であったが、令和元年度は59.8%と2.4ポイント増加している。運動・スポーツが生活に定着しつつあり、満足度がわずかながら高まった。</p> <p>○年齢別の1週間に1回以上のスポーツ実施率は、70歳以上は56.1%と平均値41.1%を大きく上回っているが、20歳代39.0%、30歳代25.0%、40歳代27.8%、50歳代22.3%、と、平均値をすべて下回っている。この要因は、20代から50代の方は仕事・子育ての関係から、60代についても再雇用等における仕事上の関係から実施率が低いと思われる。なお、70歳以上でスポーツ実施率が高いのは、余暇があることに加え、近年の健康志向と相まって体力づくりをする意識が高いことや、ここ数年力を入れている「総合型地域スポーツクラブ」などの取り組みの成果が出てきていると考えられる。</p> <p>○スポーツ施設の延べ利用者数は、平成29年度289,594人、平成30年度289,812人とほぼ横ばいであったが、令和元年度は、256,739人と新型コロナウイルス感染症拡大もあって前年よりも下回った。これは、スポーツ実施率も横ばいとなっていることや、体育施設利用人数もほぼ横ばいとなっていることから、施設を利用する人や団体は通年を通してあまり変わらないことが推測される。なお、近年は運動をする人としらない人が2極化していると思われる。</p> <p>○スポーツ少年団指導者数は、平成29年度169人、平成30年度160人、令和元年度152人と減少傾向である。これは少子化によりスポーツ少年団の団体数や団員登録数の減少もその要因となっていると思われる。</p>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<p>○週1回以上のスポーツ実施率の目標値46.0%に対して40.2%と5.8ポイント下回っている。</p> <p>○スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合については、目標値68.0%に対して59.8%と8.2ポイント下回っている。</p> <p>○市のスポーツ施設利用者延べ人数は、目標値282,000人に対して256,739人と25,261人下回っている。</p> <p>○スポーツ少年団登録指導者数は、目標値199人に対して152人と47人下回っている。</p>		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>・令和元年度、貢献した事務事業は「第74回国民体育大会に向けた開催準備事業」、「桜川市スキー教室事業」、「県民駅伝競走大会派遣事業」等であった。</p> <p>・「第74回国民体育大会に向けた開催準備事業」は、子どもから高齢者までスポーツを通じて健康で明るい生活が出来るようスポーツに取り組む人を増やし、スポーツ実施率を向上させる機会を設けた。</p> <p>・「桜川市スキー教室事業」は、冬のスポーツに接する機会の少ない小学生を対象に、冬季における運動不足の解消や、冬季スポーツの促進を図るとともに、スキーの基本技術の習得等を目的に教室を開催し103人が参加した。</p> <p>・「県民駅伝競走大会派遣事業」は、広くスポーツに親しむ機会を与え、心身ともに健全で明朗な市民育成に努めることを目的に10人が参加し、競技力の向上を図った。</p>	<p>・今後は、普段スポーツに取り組んでいない人なども対象に、健康維持や生活習慣病及び介護予防も視野に入れながら、関係各課と連携を図り、身近で出来るウォーキングや散歩などの普及・啓発や健康体操教室の開催等を行っていく。</p> <p>・安全で快適にスポーツ施設が利用できるよう、老朽施設の修繕・改修を行うことにより、施設の充実に努める。</p> <p>・総合型地域スポーツクラブ「桜川スマイルクラブ」が平成22年10月に設立し、平成28年9月にはNPO法人化するなど、順調な運営を行なっている。スポーツ実施率からみると、70歳以上は気軽にスポーツが出来る環境は整ってきているが、20代から60代までの実施率を上げるには、各団体の連携が必要であり、さらに子育てをしながらの参加や、仕事が終わった後に参加出来るような魅力のある仕組みを今後考えていくことも必要と思われる。</p>